

視点(2080)

マダガスカル島にチンパンジーが登場!!

(SC理論編)

SCの比喩論として「マダガスカル島のキツネザルの多様化理論」があります。動物の中で覇権的存在のキツネザルが、食物が飽和状態になると“80の種”に多様化して、形は変わってもキツネザルとしてのDNAを持ち、君臨していることです。それと同様に、流通業界の覇権業態であるSCも飽和期（一通りSCが行き渡って、生活者の平均満足に達した状態）から成熟期に多様化して新しいマーケット（キツネザルの場合は食べ物）を開発し、SCの存在性を高めています。

現在、流通業界及びSC業界に1990年代から登場した「ネット通販」「バーチャル店舗」が2000年代・2010年代を経て、2030年代・2040年代にはSCに匹敵する存在となる可能性を持っています。

SCの比喩論で言うと、マダガスカル島に、新たにキツネザルよりも強力(?)な「チンパンジー」（ここでは比喩論の存在としての動物でチンパンジーを選びました。チンパンジーはオランウータン・ゴリラと並ぶ類人猿で知恵という新技術を持った動物）が何らかの理由で出現したことを意味します。仮説としての猛獣（ライオンやトラ、チーター等）としなかったのは、チンパンジーはキツネザルとは全く異なる能力（生き抜くノウハウ）として他の動物とは卓越した知恵を持っているからです。猛獣は地上のみで木の上での戦いではないため、流通業界と比喩するとSCとカテゴリーキラーやディスカウントストアとの戦いと同じであり、SCにとって特定分野での棲み分けが可能な競争であり、全体的に影響が少ない競争となります。

今やネット通販（無店舗販売を含む総称）が流通業界において大きな存在になりつつあり、SCの覇権業態としての存在を脅かしています。流通業界（マダガスカル島におけるキツネザルの覇権状態）にネット通販（新ノウハウを持ったチンパンジーと仮定）が登場し、今や1つの固有マーケットの中でRSC1つ分以上の売上を持っています。近未来（2035年頃）には1つの固有マーケットに「RSCが3つ分の18.0%のシェア（6.8%+6.8%+4.4%）」「ネットもRSC換算3つ分の20.0%（6.8%×3）」のマーケットシェアになると想定されます（現状の1つの固有マーケット内のマーケットデータに基づく推計）。私は、近未来のSCとネット通販が切磋琢磨して最盛期にはSCのシェア30.0%（現状時価で40兆円）、ネット通販のシェア20.0%（同、27兆円）、SC・ネットシェアが50.0%（同、67兆円）と推計しています。SCが流通業界の覇権業態ですが、ネット通販が新たなノウハウを持って強烈に進出すると、ネット通販の擬似覇権化（覇権業態と同じように既存業態が覇権業態の出方を見守り対応する状態）となります。そこで強力なライバルが出現するとSCの対応する方向性は次の通りです。

①大規模化する

自らの生存性を高めるために、SCは大規模化して他のSCの売上を奪取すると同時に、ネット通販との異質性を規模の魅力で対応します。

②擬態化する

ネット通販と同じことを行って戦略的同質化を進め、ネット通販の優位性を自らが取り込んでSCがネット通販の擬態化します。

③共生する

リアル店舗とバーチャル店舗はクロスチャネルやオムニチャネルとして一体化することにより、SCとネット通販は共存共栄の道を歩み、互いに相乗効果を発揮するように進化させます。

④独自個性化する

SCがネット通販とは異なるノウハウを開発して、ネット通販が持っていない独自のノウハウを持ちます（例：毒をもつ、防御を固める、武器を持つ）。

⑤小規模化する

強力に展開するネット通販に対して、より小規模化することによりニッチマーケット及びマイノリティマーケットを対象とし、競争相手が手出しができないようにします。

いずれにしても、リアル店舗とバーチャル店舗は融合することになり、両者の間には垣根がなくなります。ただ、統計上（形としての表現）は**2大流通覇権業態**によるシェアが50%になると推定されます。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 軍 秀 之